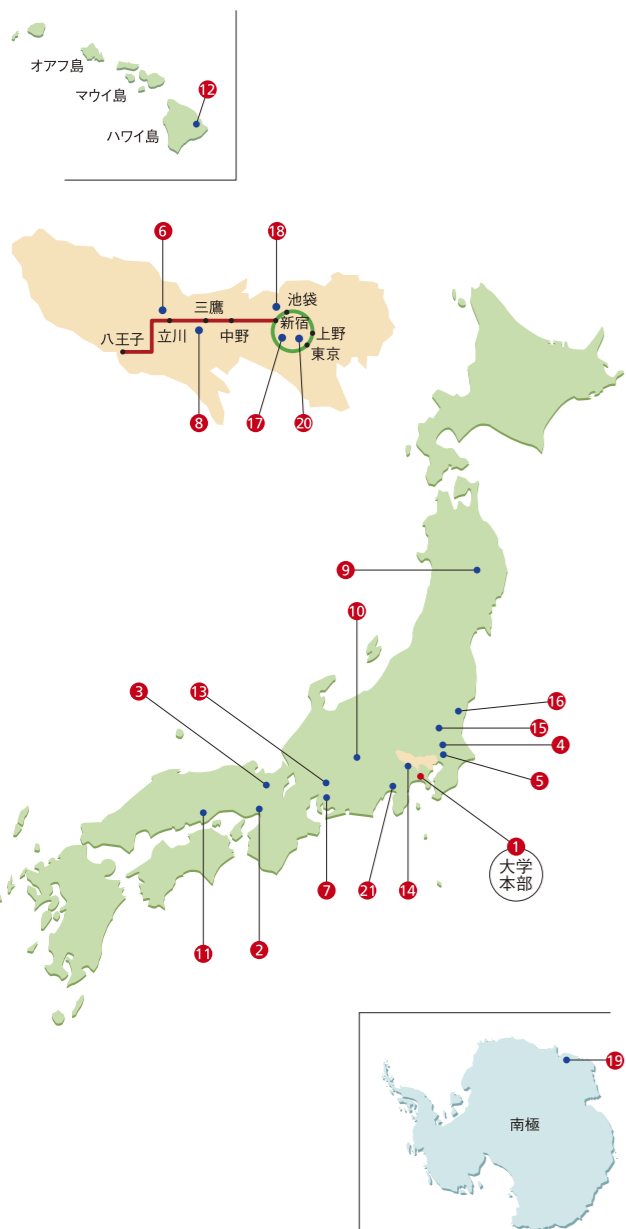


総合研究大学院大学の概要

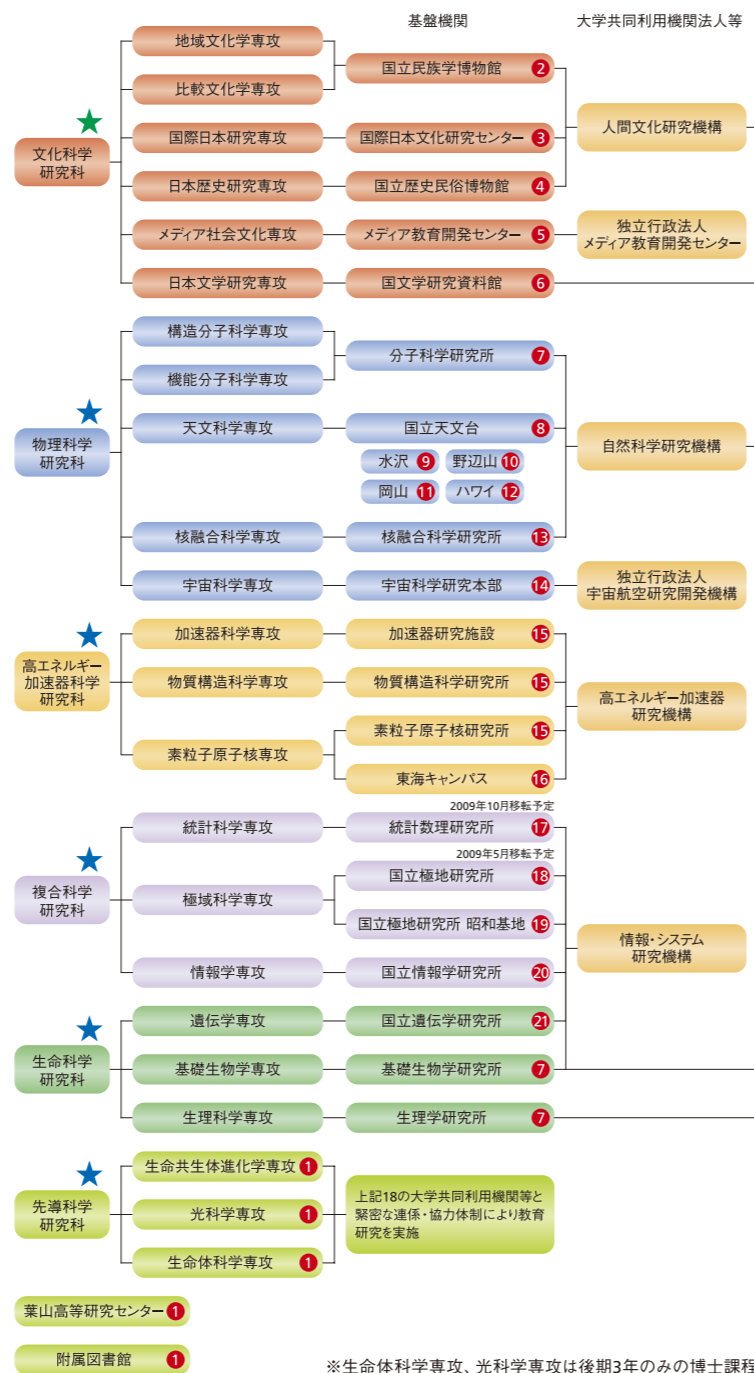
総合研究大学院大学(総研大)の基盤は大学共同利用機関です。大学共同利用機関は日本が世界に誇るトップレベルの研究組織で、各種の大型の実験・観測施設および学術資料を保有しています。国内外の大学研究者が共同で利用できる国際的な研究拠点でもあり、多様な研究者集団と接する研究環境がつくられています。

総研大では、学生1人に対し教員数は2~3人という充実した体制で博士教育をおこなっており、その期間についても5年一貫のフレキシブルな制度を取り入れています。



★ 後期3年だけの博士課程

★ 5年一貫制博士課程 / 後期3年だけの博士課程



※生命体科学専攻、光科学専攻は後期3年だけの博士課程

SOKENDAIトピックス 2008年9月~2009年2月

※トピックスの詳細は<http://www.soken.ac.jp/education/journal/no.15/no.15.html>で紹介しています。

- 国際日本研究専攻 ③ 「仏教からみた前近代と近代」の共同研究で、仏教だけに留まらず、日本の宗教史・思想史を総合的に見ていく視座を確立。
- 日本文学研究専攻 ⑥ イタリアで開催されたEajs(ヨーロッパ日本研究学会)において、日本の古典文学や芸能の「笑い」の方法についてパネル発表、好評を博した。
- 構造分子科学専攻 ⑦ 世界に先駆けてπ電子系を組み込んだ、新しいシート状高分子および有機骨格構造を創出した。
- 機能分子科学専攻 ⑦ 水の運動を明らかにする二次元赤外スペクトルの理論シミュレーションを、斉藤真司教授らが実現。
- 天文学専攻 ⑧ 現実的な熱輸送過程を取り入れた多重格子輻射磁気流体シミュレーションコードを開発した。
- 核融合科学専攻 ⑬ 核融合炉用低放射化バナジウム合金の高温クリープ変形を10分の1に抑える新しい熱加工処理法の開発に成功。
- 宇宙科学専攻 ⑭ 月探査衛星「かぐや」が月の起源と進化の解明に大きな成果、米科学誌サイエンスに4編の論文を掲載。
- 加速器科学専攻 ⑮ 国際リニアコライダー計画では、ナノメートルレベルの電子ビームの生成が必要となるが、その実現のための試験ビームラインの運転が開始された。
- 統計科学専攻 ⑰ 「強風警報システム」の開発に関連して、JR東日本研究開発センターより感謝状。
- 極域科学 ⑱ 国際共同研究によりグリーンランド氷床コアを分析し、最終氷期から間氷期への移行期における、極めて短期間での急激な気候変動の過程を解明。
- 情報学専攻 ⑳ ペットロボットによるユーザーのマルチモーダルな評価信号の学習を実現。
- 遺伝学専攻 ㉑ 深川竜郎教授らの研究グループが、染色体の正確な分配と細胞のがん化の制御に必要なタンパク質複合体を発見。
- 基礎生物学専攻 ㉑ 植物の新規細胞小器官“ERボディ”の形成の仕組みを解明。
- 生理学専攻 ㉑ アルカリ性物質を「痛み」と感じるメカニズムを、富永真琴教授のグループが解明。